



病院キャラクター 「カリヨンの樹」に住むロボットたち

埼玉
県立

小児医療センターだより



小児がんセンター紹介

血液・腫瘍科科長兼小児がんセンター長 康

こう
かつよし
勝好

地域医療機関の皆様におかれましては、日ごろから小児がん患者様の紹介、逆紹介の受け入れ、当センターフォロー中の患者様の予防接種、感冒等への対応など大変お世話になっており、心から感謝申し上げます。本紙面をお借りして小児がんセンターについて紹介させていただきます。

当センターでは從来から、小児がんの診断、治療に当たっては関係各科、各部門の緊密な連携のもと国内最高レベルの集学的治療を行ってきましたが、平成30年、小児がん診療機能をさらに高めるべく、小児がんセンターを設置しました。がん治療を担う各診療科としては、血液・腫瘍科に加えて小児外科などの外科系各科、放射線科があり、診断にあたっては病理診断科・放射線科の全面的なサポートを受けます。これに加えリハビリテーション部や緩和ケアチーム、栄養サポートチームといった支援部門、相談室や特別支援学校など患者・家族の抱える様々な問題を支える部署、臨床試験や臨床研究を支える臨床研究部、数多くの新薬開発にあたる治験管理室等々、まさに小児がんセンターの名称に値する総合的なセンター機能を有しています。病床数としても血液・腫瘍科の52床（無菌病棟28床）に加えて、外科系病床、集中治療病床も利用することが可能であり、60名程度という国内でも最大規模の小児がん患者受け入れ態勢が整備されました。

当センターは平成25年に全国に15ある小児がん拠点病院に指定されました。これまでの小児がんに対する診療実績等が評価されたためです。拠点病院に指定されて以降は他の拠点病院である成育医療研究センター、都立小児総合医療センター、神奈川県立こども医療センターと連携して、広く関東甲信越地域の再発・難治の小児がんの患者さんの受け入れに力を入れています。埼玉県内においても埼玉県小児がん診療連携協議会を設置し、これまで以上に充実した地域連携を図ってきました。このような実績が評価され、令和5年度からも指定継続が決定しました。

診療実績は表に示す通りですが、当センターの新規小児がん患者数は年間約90-100例で、全国1-3位、血液がんは一貫して日本一です（小児血液がん学会疾患登録データより）。血液・腫瘍科の入院患者数は一日平均50名で、当センター全体の入院患者の約20%を占めています。造血細胞移植の実施件数は年間20-30例であり、小児の移植症例数としては全国2-4位です。

小児がんセンターの重点的な取り組みとして、臨床試験への参加があげられます。当センターは日本小児がん研究グループ（JCCG）の臨床研究に積極的に参加し、JCCGの臨床試験への登録数は日本一です。また新規抗がん剤などの治験にも積極的に取り組んでおり、当センターは国内で小児の治験参加者数が最も多い施設の一つです（小児治験ネットワークのデータから）。

最先端のがん医療にも積極的に取り組んでいます。がんゲノム医療拠点病院である県立がんセンターと連携するがんゲノム医療連携病院に指定され、患者さんは先進的ながんパネル検査を当センターで保険診療として受けることが可能です。難治性急性リンパ性白血病に対する画期的治療として注目されているCAR-T療法（キムリア®）についても、当センターは日本全体で約15しかない小児の実施施設になりました。小児病院でCAR-T療法が実施できるのは国立成育医療研究センターと当センターだけです。

当センターは今後も小児がんに対する新規治療開発に積極的に取り組み、埼玉県内はもとより日本全体の小児がん医療の進歩にも貢献していきたいと考えています。今後とも皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

最近6年間の診療実績

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
造血器腫瘍	54	47	53	61	55	57
(内ALL)	25	18	23	29	23	22
固形腫瘍	29	40	36	35	44	48
造血細胞移植実施数	20	29	24	26	29	40

埼玉県立小児医療センターだより 第25号 ご案内

- 小児がんセンター紹介 1
- 診療部門紹介 総合診療科 2
- 診療部門紹介 泌尿器科 3
- 看護部紹介 看護部の取り組み 4
- コ・メディカル部門紹介 保健発達部門 5
- 祝日開院日、その他のお知らせ 6

診療部門紹介



総合診療科

科長 たなか まなぶ 田中 学

子ども病院には、「小児科」の標榜がありません。受診される方々のすべてが子ども（あるいは子どもの延長上）という前提で設立された施設だからであり、当センターは子どものための専門診療科のほぼ全てが揃っています。でも、子どもたちは病気だからという以前に「体調が悪いから」、「症状が不安定だから」病院に受診するのではないでしょうか。

埼玉県立小児医療センターの総合診療科の診療業務は、大きく分けて病院総合診療（hospital medicine）および「子ども病院の小児科外来」に分かれます。

1. 病院総合診療について

当センターの病床区分は、PICU、HCUおよび一般病棟に分かれており、患者さんの重症度やケアを要する程度に応じて入院病棟が定まります。そのような環境の中で、当科は一般病棟での患者管理を担当し、その患者さんの内容は以下のようになっています。ただし、各専門診療科が担当する領域の疾患や治療に該当する患者さんは、基本的にその科で担当することになります。

(1) HCUまたはPICU（集中治療科担当）からの退室後も引き続き入院を要する患者さん。この場合は、治療の継続、状態管理や在宅移行への調整が主な目的となります。もともと基礎疾患があつたり、疾患の後遺症など、重症化リスクが高い状態の患者さんが多いため、綿密な管理と家族との関係性構築が必要な場合が多い傾向があります。

(2) 救急受診され入院適応となりましたが、必ずしもHCUやPICU入室の適応となる重症度でもない状態の患者さん。

(3) 主に当センターの外科系診療科でフォローされている患者さんが、原疾患とは異なる体調悪化をした場合の管理。

2. 子ども病院の小児科外来について

当センターは基本的には紹介型病院という形式をとっています。患者さんのご紹介を検討いただく時点で特定の疾患や病態が疑われている場合には、そちらの診療科に直接ご紹介をいただくことをお願いしています。専門診療科の外来は別に予約を受け付ける形となりますので、患者さんにとって二度手間になることを防ぐためにもご理解をいただければと思います。

ご紹介の時点でまだ判断がつかない症状、状態の患者さんについては、総合診療科への受診予約をお願い致します。診断または症状安定ののち、改めてご紹介をいただいた診療所または病院にその後のフォローをお願いする場合がございます。





診療部門紹介

泌尿器科

科長 おおはし 大橋 研介

医長 よしざわ 吉澤 しんすけ 信輔



年間手術件数
470件(R3)は全国
有数の症例数です



停留精巣
毎年約120件の精巣
固定術を行っており
どんな停留精巣も対
応可能です。



内視鏡手術
年間130件の尿道内
視鏡手術・腹腔鏡手
術を行っており低侵
襲手術が主流です。
(膀胱尿管逆流のヒア
ルロン酸注入他)

小児泌尿器/尿道下裂の診療はお任せください！

極めて難しい尿道下裂の手術は症例数の多い施設で行なうことが世界的な潮流です。術後合併症を減らすためには尿道下裂に精通した外科医だけでなくスタッフが術後管理に慣れていることも必須です。県内随一の症例数を誇る当院は小児外科・内分泌科・形成外科・腎臓科と連携し専門的診療を行っています。長期フォローアップ体制も確立しており成人後も診療可能です。

**対象疾患；尿道下裂・停留精巣・移動精巣・包茎・
膀胱尿管逆流症・水腎症・排尿障害・
神経因性膀胱など**

1

豊富な症例数

全国有数の手術件数
を誇り経験豊富な専門
医が診療にあたります

2

低侵襲

腹腔鏡・尿道内視鏡
手術を積極的に行って
います

3

安心・安全

子どもの手術は小児の
専門病院で専門医が行う
ことが安心安全です

埼玉県立小児医療センター 泌尿器科科長 大橋研介

e-mail:ohashi.kensuke@saitama-pho.jp

ご相談等ございましたら、ぜひご連絡をお願いします。



看護部紹介

埼玉県立小児医療センター看護部は、看護師 535 名、看護助手 65 名の看護職員が在籍し、病院の理念「For the future, for the children こどもたちの未来は私たちの未来」のもと、専門性の高い看護の提供に日々努めています。

そして副病院長兼看護部長のもと看護副部長 3 名、看護事務補助者 3 名、看護職専門員 1 名で、約 600 名の看護職員が専門性の高い小児看護の提供が行えるよう、教育や看護職員が働きやすい職場環境の提供の支援を行っています。



【看護部の取り組み】

1. 質の高い看護の提供に向けた教育

地方独立行政法人県立病院は、共通の教育体系クリニカルラダーを使用して各病院の専門性に合わせた看護職員の教育を行っています。新型コロナウイルス感染症流行後は各学校での実習が制限され、実習が十分できなかった新採用者が多くいました。そのような新採用看護職員に対して、看護部では教育方法を検討して OJT による個々の支援を強化して育成しています。

今年度埼玉県立小児医療センターには、59 名の新採用者が配属されました。そんな新採用者達も今は独り立ちに向けて、皆大きく成長してがんばっています。

地方独立行政法人埼玉県立病院機構 クリニカルラダー

質の高い看護ができる看護職員を育成するために、習熟段階をラダーレベル I から V 段階に設定しあるべき姿を定めています。各病院の専門性を追求し、自ら看護実践能力を開発できるための支援を行っています。



専門・認定看護師 所属数

専門看護師			
小児看護専門看護師			
		6名	
認定看護師			
新生児集中ケア認定看護師	5名	がん性疼痛認定看護師	1名
小児救急看護認定看護師	2名	がん化学療法看護認定看護師	1名
感染管理認定看護師	2名	緩和ケア認定看護師	1名
集中ケア認定看護師	1名	摂食嚥下障害看護認定看護師	1名
皮膚排泄ケア認定看護師	1名	糖尿病看護認定看護師	1名

2. 病院経営への貢献

昨年度より入退院支援センターを開設し、患者さん・ご家族への入院前から退院まで継続した支援が行えるようになりました。また、入院をお断りしないことを目標に、入院ベッドの調整も行っています。



3. 働き方改革に向けた職場環境整備

質の高い看護の提供に向けて看護職員が働きやすい職場環境の提供・働き方改革を目指し、今年度よりユニフォームを日勤用と夜勤用に色を分けました。他職種や患者さん・ご家族に今の担当者を分かりやすくすることで、看護職員の時間外業務削減に努めました。



新採用職員 新しいユニフォームで集合



コ・メディカル部門紹介

言語聴覚士 (保健発達部)



保健発達部のコ・メディカルは、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・臨床心理士・視能訓練士で構成されています。言語聴覚士（常勤3名・非常勤7名）は、ことばやコミュニケーション、読み書きや食べることに障がいのあるお子さんに対し、評価、助言、指導を行います。

言語聴覚士（Speech-Language-Hearing Therapist : ST）が対象とするのは、以下のような多岐に渡るお子さん達です。

○ことばが不明瞭

- ・口唇口蓋裂など、お口の作りに問題があって発話が不明瞭なお子さん
- ・お口の作りには問題がないけれど、特殊な「癖」によって発音が不明瞭なお子さん
- ・ことばが詰まる、繰り返す、伸ばすなど、流暢さに問題のあるお子さん（吃音）

○きこえの問題

- ・聴覚障害によってことばやコミュニケーションに困難のあるお子さん

○ことばの発達が遅い

- ・知的障害や発達障害によってことばが遅れるお子さん
- ・知的発達には問題がないのに、ことばの理解や表出だけが遅れるお子さん

○声が出せない

- ・気管切開に伴う発声障害などの理由で声を出すことに障がいのあるお子さん

○失語症、高次脳機能障害

- ・脳の損傷や腫瘍、炎症などにより、ことばが出なくなったお子さん

○読み書きが苦手

- ・話し言葉には問題がないのに、読むことや書くことが著しく苦手なお子さん

ことばやコミュニケーションは、「伝える相手があってこそ」のものです。お子さん自身の問題を改善するだけでなく、お子さんを取り囲む環境（ご家族の関わり方、先生や友達の理解など）を整えることがとても大切です。特に乳幼児期は、ご家族の関わり方を工夫することでお子さんの「伝えたい」という気持ちが育ち、ことばやコミュニケーションの力が大きく伸びることができます。そこで、生後すぐに難聴や口唇口蓋裂がわかったお子さんに対して、0歳時から相談に応じています。また、発達につまずきのあるお子さんの保護者様に対して、できる限り早期に適切な助言を行うため、言語聴覚士と作業療法士による保護者様向けの集団外来「早期子育て支援プログラム(Family's Early Support in Saitama : FESS)」を実施しています。

長期的な治療が必要な口唇口蓋裂のお子さんに対しては、Kuchi-Com（くちこみ）というご家族向けの交流会を実施し、安心して子育てができるようサポートしています。





@scmc_phot



@scmc_phot



facebook



令和
5年度

祝日開院日のお知らせ 決定！



5月3日(水)、7月17日(月)、1月8日(月)
通常どおり外来診療を行います。



予約専用電話の受付も通常どおり行います。

5月

4月29日	4月30日	5月1日	5月2日	5月3日	5月4日	5月5日
土	日	月	火	水	木	金
昭和の日				憲法記念日 (祝日開院日) 通常診療	みどりの日 休診	こどもの日 休診
休診	休診	通常診療	通常診療			

7月

7月15日	7月16日	7月17日
土	日	月
		海の日 (祝日開院日) 通常診療
休診	休診	

1月

1月6日	1月7日	1月8日
土	日	月
		成人の日 (祝日開院日) 通常診療
休診	休診	

2月16日(木)

「小児医療センター第8回地域連携懇談会」 ハイブリッド開催しました!!

コロナ禍で対面での開催が難しい日が続いていましたが、4年ぶりに地域の皆様をお呼びし開催することができました。WEBでも大変多くの皆様にご参加いただき、「埼玉県立小児医療センターの今後の新たな試み」をテーマに講演を聞いていただきました。

来年度は、より多くの地域の皆様とお会いできるのを楽しみにしています。



病院へのアクセス



■公共交通機関をご利用の方

- JR京浜東北線、宇都宮線、高崎線「さいたま新都心駅」から徒歩約5分
- JR埼京線「北与野駅」から徒歩約6分
※歩行者用デッキを点線に沿ってお進みください。

■お車をご利用の方

- 駐車場は有料になります。
- 機械式駐車場には車両のサイズの制限があります。
ご利用の時間帯によっては、車両が集中し、入庫まで大変お時間がかかることが予想されます。
できるだけ、公共交通機関のご利用をお願いいたします。

小児医療センターだより第25号
令和5年3月発行

編集・発行 埼玉県小児医療センター
地域連携・相談支援センター



埼玉県立小児医療センター

〒330-8777 埼玉県さいたま市中央区新都心1番地2

Tel ▶ 048-601-2200 (代表) Fax ▶ 048-601-2201

E-mail ▶ scmc@saitama-pho.jp

URL ▶ <https://www.saitama-pho.jp/scm-c/index.html>



埼玉県立小児医療センター